

## 護憲ってカッコイイ

表題と写真は毎日新聞 6 月 29 日夕刊「特集ワイド」である。私のように、1960 年代後半から 70 年代初頭に信州松本で大学時代を過ごした者にとって、最近の「デモ」は様変わりの感がある。松本市内をよくデモしたものだ。

あの時代も私のような若い学生が街頭に繰り出し、「ベトナム戦争反対」「沖縄を返せ」と声を挙げていた。それから久しぶりに学生などの若い人たちなどの声が街中にこだますようになった。戦争への危機感から。特集には、「若者が主婦が……憲法の価値再発見」とある。

若者でにぎわう東京・渋谷で週末の 14 日夕方。百貨店が密集する交差点でヒップホップ系音楽に合わせ、ラップ調の叫びが響いた。「ヘリクツこねるな」「命を守れ」。太鼓のリズムに合わせ、踊るように練り歩くのは、安保法案に反対する若者デモ。主催団体の一つ、「若者憲法集会」事務局の田中悠さん(34)は「憲法を無視する安倍政権は 99 条の憲法順守義務違反。憲法そのものが否定されているという危機感が若者に広がった表れだ」と手応えを語る。

若者デモで大きな役割を果たしたもう一つの団体は、2013 年 12 月に成立した特定秘密保護法に反対した無党派の大学生ら 100 人余が、安保法案反対で 5 月に再び集まって結成した「SEALDs(シールズ)だ」。団体名は「自由と民主主義のための学生緊急行動」を意味する英語の頭文字。「デモはカッコイイと思わせる」のがモットーで、理想の民主主義を語る熱いスピーチの映像をネットに流し、新しい運動スタイルを目指す。6 月から毎金曜日夜に国会前で続ける集会は、19 日、26 日には 2500 人にのぼり、政治を避けていた若者の主権意識を目覚めさせた。

若者デモで大きな役割を果たしたもう一つの団体は、2013 年 12 月に成立した特定秘密保護法に反対した無党派の大学生ら 100 人余が、安保法案反対で 5 月に再び集まって結成した「SEALDs(シールズ)だ」。団体名は「自由と民主主義のための学生緊急行動」を意味する英語の頭文字。「デモはカッコイイと思わせる」のがモットーで、理想の民主主義を語る熱いスピーチの映像をネットに流し、新しい運動スタイルを目指す。6 月から毎金曜日夜に国会前で続ける集会は、19 日、26 日には 2500 人にのぼり、政治を避けていた若者の主権意識を目覚めさせた。

19 日夜、小雨の続いた集会。「水着を買うついでに国会デモに来ました」「立憲主義もわからない政府に自由を奪われたくないんです」と、女子大生が相次いでスピーチした。集会で叫ぶコールは「民主主義って何だ」「何だ」とかけ合う。どのスピーチも叫びも、憲法や安保法案の勉強会を繰り返しながら一人一人が考えた表現だ。「護憲を型通り叫ぶのはダサイ。参加者それぞれが自分の言葉にしてこそ、国民の『不段の努力』の意味がある。」中心メンバーの明治学院大 4 年の奥田愛基さん(23)は、立憲主義の危機だからこそ、若者の努力を表現したいという。

(2015 年 7 月 4 日)

